

## 【事例 H24-04-22】 山口県

### マスメディアを活用した普及啓発（新聞特集記事）

3月の自殺対策強化月間に合わせて、「アルコール依存症と自殺～大量飲酒は睡眠を妨げ、うつ病や自殺に至ることも～」をテーマとし、アルコール依存症やうつ病への気づきを促し、専門機関への早期受診や相談を呼び掛ける。新聞広告（全面）を平成24年3月3日（土）県内版朝刊3紙に掲載した。新聞広告には自殺対策フォーラム（掲載から1週間後に開催）の告知も掲載し、新聞特集記事とタイアップした企画となった。

【実施主体】 山口県

【大綱の分類】 こころの健康づくりを進める

【事業予算】 平成23年度 7,121千円

【利 点】

例年3月の自殺対策強化月間に行われるフォーラムの告知と合わせて、アルコール依存症やうつ病、自殺の関係について新聞広告（全面）を掲載した。

【実施に至るまで】

【背景・必要性・理由の概要・等】

警察庁のデータ（※1）では、自殺の原因・動機が明らかなもののうち、最も多いのが「健康問題」であり、中でもうつ病が最も多く約44.4%（15,802人）を占める。一方、アルコール依存症は約2.1%（327人）にとどまっている。しかし、自殺の背景にはうつ病以外の精神疾患が隠れていることも多く、アルコール依存症もその一つである。実際、救急施設に運ばれた自殺企図者に対する調査（※2）によると、自殺企図者の75%に精神障害が認められ、そのうち約46%がうつ病で、約18%がアルコール・薬物依存症等というデータもある。国の自殺総合対策大綱や自殺対策白書においても、うつ病以外の精神疾患等による自殺ハイリスク者対策の推進が謳われていることから、一般県民を対象として、アルコールとうつ、自殺の関係についての普及啓発を図ることとした。

【計画を立てる上での工夫・等】

企画・運営は、精神保健福祉センターで行い、コメントについては各執筆者に直接依頼。

【具体的な内容・実施の過程】

3月の自殺対策強化月間に合わせて、新聞広告（全面）を掲載。詳細は以下のとおり。

【掲載日】 平成24年3月3日（土）【掲載先】 県内版朝刊3紙【テーマ】 「アルコール依存症と自殺～大量飲酒は睡眠を妨げ、うつ病や自殺に至ることも～」。アルコール依存症やうつ病への気づきを促し、専門機関への早期受診や相談を呼び掛ける。【内容】 アルコール依存症やうつ病、自殺の関係について、以下4名の精神科医からのコメントを掲載。

- ・ 山口大学医学部精神科神経科 教授 渡辺義文
- ・ アルコール依存症治療専門病院 高嶺病院 院長 橋本 隆

- ・成増厚生病院（東京都） 診療部長 後藤 恵
- ・山口県精神保健福祉センター 所長 河野通英

【成 果】

新聞広告には自殺対策フォーラム（例年3月開催）の告知も掲載。掲載日から1週間後の開催で、テーマを「お酒と心の健康を考える～不眠・うつ病・飲酒運転・自殺を予防するために～」とし、新聞特集記事とタイアップした企画となった。コメントの執筆者の1人は講演のメイン講師である後藤恵氏。掲載後、一般県民よりアルコール問題について反応があった。また、フォーラムの様子は、当日の夕方のニュースで放送されるなど一定のパブリシティ効果もあった。

【課 題】 継続的に広告に費用を使えない

【事業種別】 普及啓発事業

【準備期間・人数】 不明

【予防段階】 1次予防

【自治体規模】 144万人（H23年度） 財政規模（不明）

【自治体負担率】 0%

【事業対象】 一般県民

【支援対象】 一般県民

【実施主体・問合せ先】 山口県精神保健福祉センター

TEL:0835-27-3480

E-mail: a15201@pref.yamaguchi.lg.jp

URL : <http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15200/mhc/index.html>

【参考資料・文献】

※1 「平成22年中における自殺の概要資料」（警察庁）

※2 「自殺の危険因子としての精神障害 — 生命的危険性の高い企図手段をもちいた自殺失敗者の診断学的検討—飛鳥井望」